



7月業績は施策効果もあり打点数・客単価は回復の兆しも、全社予算には届かず。

◇ 7月業績結果 ◇

年間	業績 (新基準)				
項目/予算比	売上	売上総利益	営業利益	EBITDA	
全社	93.4%	91.6%	77.4%	80.1%	
SM	93.2%	90.6%	63.7%	68.3%	
百貨店	94.2%	95.2%	91.0%	91.0%	
外販	営業	93.2%	92.6%	98.8%	98.8%
	製造	※2	※2	※1	※2
	バンダー	※2	※2	105.7%	105.7%

※1 実績がマイナスのため算出し ※2 会計新基準において計上なし

- SM 事業部では今月も売上予算達成には届かなかったものの、本年土曜日の日合わせとなった【土用の丑の日】や7月7日よりスタートした毎週木曜日【青果の日】における集客施策により前月より客数・打点数・客単価がアップ。夕方以降のお買い場状況確認や惣菜の集積など日々の取り組みも効果が出ている。
- 百貨店事業部では外出傾向やギフト需要を見込み銘柄牛など売り込んだが想定より売上が伸びなかった。土用の丑の日は好調に推移しプラスに働いた。
- 外販事業部ではチーズケーキの出荷が好調で売上前年・予算ともに達成。営業効果により当月も新規顧客の受注があり売上・営業利益向上につながった。
- バンダー事業部では客足や出勤者増加により自動販売機売上がアップ。QI 店舗などでは熱中症対策として一部商品価格下げた効果もあった。

気になる!

7月7日よりスタート! 青果の日の98円均一

- 青果をきっかけに店舗来店客数を増やすことを目的に、SM 店舗で7月7日よりスタートしました。
- 需要の高い商品を中心に商品価格を98円に設定しています。
- 実施後は青果部門の木曜日の売上に関して前年比で102.5%、前月から11.4ポイントアップするなど、一定の効果が出ているものの店舗全体への波及には課題を残しています。
- 今後は他部門との関連販売を強化し、集客効果をお店全体に波及させ、店舗全体の売上アップにもつなげていきます



営業時間変更のトライアルについて進捗・効果について確認を行いました!

- 8月より笹塚店・仙川店・石神井公園店・北浦和店・小石川店にて開店時間の30分前倒し（小石川店以外は閉店時間も30分前倒し）のトライアルを行っています。（※完全陳列時間はこれまでと変わらず11時半です）
- この取り組みは、顧客の購買行動やライフスタイルの変化、競合環境の変化（同業他社 SM の開店時間傾向を見ると9時台開店が70%超えていること等）などへ対応していくことを目的に行っています。
- 現在、各店開店から10時までの売上は想定約140%と伸長し、お客様の声を見てもポジティブな声を多くいただいています。
- 勤務状況については一部の方にシフト変更していただいておりますが、基本的にはこれまでと同じシフトでの運用を行っています。
- これは取り組むにあたって業務改善を進めることができていることも起因しています。
- 一例としては、開店準備の負担を減らすため、前夜に翌朝使用する用度を準備、夜間商品をしまい込む場所を他部門の冷蔵庫に変更し朝の品出しをしやすくする、レジのダスター設置の簡易化など、これまでの業務のやり方の見直しにも繋がっています。

✿ 各店でいただいたお客様の声(一部抜粋) ✿

- ・暑い時間の前に買い物が出来て嬉しい
- ・出かけたついでに買い物が出来て便利
- ・働かされている従業員の皆さんに感謝です

◇ 雨宮社長からのメッセージ ◇

- 直近では百貨店の館全体の売上は回復の兆しがありますが、一方で食品フロアの売り上げは伸び悩んでいます。スーパー業界を見ても今年度は厳しい状況が続くなかで、各社売上を伸ばしているのが惣菜です。インスタ商品の独自性などで各社差別化を図るなか、我々もお客様に選ばれるよう戦っていかねばなりません。
- また、「お客様に選ばれるように」という視点では、直近 SM 5 店舗でトライアルを行っている営業時間変更も大切な取り組みです。今回営業時間変更は、従業員の皆さんが想像力を働かせてくれたことで業務改善のきっかけにも繋がっています。夜間に翌朝の用度を準備すること、1日の全体の作業工程を見直すなど、今のやり方が全て正しいとは思わずに、考えてトライしたからこそ進化していくことができました。
- 今やっていることが100点だと思ってしまうと、何も進みません。こういった好事例を、ぜひ他所属でも取り組んでいただければと思います。
- また、今期は「接客を磨き上げる」年度と考えています。売上が厳しいときこそ、【細やかな接客】や【気持ちの良い挨拶】、これら基本の徹底をより大事にし、さらに進化していくには何が必要なのかを考え、実行していただければと思います。全社一体となって頑張っていきましょう。

◇2022年度 上期 中央安全衛生委員会報告◇

中央安全衛生委員会は、会社の安全衛生面の状況確認とそれに対する対策を講じることを目的として、労使で年間2回開催しています。今回は、8月26日(金)に開催した「2022年度上期中央安全衛生委員会」の内容についてお伝えしてまいります。

(1)2022年度の状況と取り組みの進捗

労災の発生防止

■今年度の労災発生状況(～7月まで)

～7月末時点で昨年度は対比すると、前年17件の労災が発生したのに対し、今年度は10件と減少傾向にあります。内部監査等で所属を巡回マニュアルの徹底(切創防止の手袋の着用など)が進んできています。労災事案10件中のうち5件が「転倒」となっています。職場の中で滑りやすい・つまずきやすい箇所があったら所属長へ報告を!



今年度より各所属で発生した労災事案については、teamsを活用しOP推進室との情報連携を図られています。再発防止策についてはトレーナーと意見交換をおこない定めています。労災発生防止の取り組みに活用できる情報などもファイルされていますので、所属でも活用してください!



<下期の重点取り組み>

- Teamsによる各事業所の安全衛生委員会の議事録とりまとめをスタート
- ポスター等で継続的に労災発生防止について注意喚起

ルール遵守(勤怠管理)

■ 2022年4月～更衣時間の労働時間化がスタート運用がはじまって間もなくは一時的に打刻忘れが増加しましたが、その状況も落ち着いてきています。また、運用が浸透してきた中で、設定していた「目安時間」について、適正な時間設定の在り方についてなど所属からも意見を頂いています。

■未打刻の状況

依然として本社の未打刻が多い状況です。直行・直帰など外出が多いことも起因していますが、フレックス勤務の正しい理解が必要です。

本社の一部所属においてPC使用時間適正化システム(IDLM)のトライアルを実施しています。PCのログ抽出により勤務実績との乖離など働き方の課題が明らかになっています。



打刻機まわりのポスター掲示によりルール周知を進めています



<下期の重点取り組み>

- 労務管理(勤怠)ルールの発信
→ 部署ごとに徹底・根付かせていくため、業務改善含めて検討を進める。

- ・改めて正しい勤怠管理の徹底をおこなうことを目的として、人事部から発信をおこないます。
- ・人事部からの発信だけでなく、根本の部署としての働き方も含めて解決を図っていく上で部門長から所属長といった職制を通じた落とし込みと進め方の確認をおこないます。

働き方改善

■ 過重労働(30H以上の時間外/月)者数の推移(昨年度対比)

月別の過重労働者数については、昨年度対比すると減少傾向にあります。過重労働の傾向を分析するとともに、時間外が多くなる要因について個別確認をすすめる必要があります。

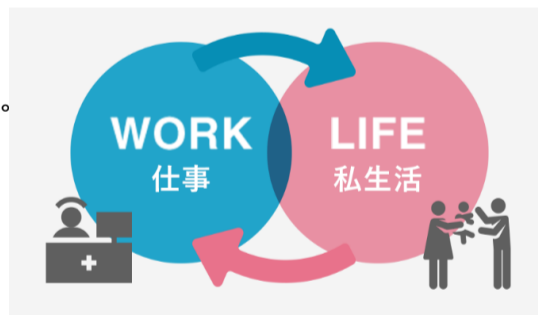
■ 有休取得率

7月までの全雇用形態あわせた有休取得率は28.2%と、昨年度よりも若干取得が進んでいない状況です。(昨年度は29.4%)

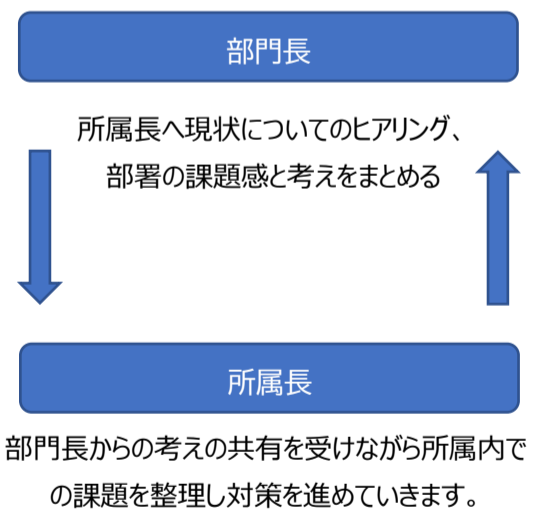
職場の中で公平に有休取得が進められるよう、会社・組合でもチェック・フォローしていきます。

■ メンタル疾患による休職者数

若年層、異動など環境の変化があった者が多い傾向にあります。異動は誰もが不安になるものではある中で、受け入れ先所属でのウェルカムな体制ができていくか確認・フォローしていきたい。復職者の復職後の経過としては、順調に勤務ができていく状況。



<サイクルイメージ>



その他

■ 新型コロナウイルス感染症対策について

国内の状況と同じように、7月以降社内においても受検者・濃厚接触者認定される方が急増しています。

<対策対応の変更について>

・政府方針を受け7/22からは濃厚接触者の自宅待機期間が5日間へと短縮されました。

・罹患者確認時の職場の消毒については、

8月より職場での自主消毒対応となりました。(最終出勤日から陽性判明の期間を問わず)

■ ストレスチェックの実施状況

2022年8月8日(月)～8月21日(日)にかけて、グループ全体で実施しました。



❖ 編集後記 ❖

- メンバーの皆さんお疲れ様です。毎月発行しているユニオンメッセージですが、目的の1つは、「会社取り組みについてメンバーの皆さんにより理解を深めていただく」ことです。今回のように、これからも様々な会社取り組みの目的や効果を確認し発信していきますね!
- 9月に入り、第9期の組合活動任期も残りわずかになってまいりました。今期も様々な組合活動へ参画、また、取り組みへのご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございました!
- 10月から第10期がスタートします。来期の方針をつくるにあたって、組合役員から多くいただいたキーワードは「身近さ」。この紙面もメンバーの皆さんの身近な関心事をたくさんお届けできるよう取り組んでまいりますので、所属で掲示された際はぜひ内容をお読み取りいただければと思います!